

千葉商科大学会計教育研究所—瑞穂会の底力—

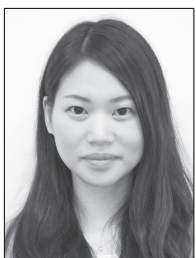


千葉商科大学会計教育研究所助教

渡邊 圭
WATANABE Kei

プロフィール

平成 20 年 3 月 千葉商科大学 商経学部商学科 卒業
平成 22 年 3 月 千葉商科大学大学院 商学研究科 修了
平成 24 年 3 月 千葉商科大学大学院 経済学研究科 修了
平成 21 年 4 月～平成 22 年 3 月 神奈川県立大師高等学校 商業科
非常勤講師
平成 22 年 4 月～平成 24 年 3 月 千葉県立一宮商業高等学校 商業科
非常勤講師
平成 24 年 4 月～ 千葉商科大学 会計教育研究所 助教
平成 25 年 4 月～ 千葉商科大学 商経学部 非常勤講師 現在に至る



千葉商科大学会計教育研究所助教

相原 安澄
AIHARA Asumi

プロフィール

平成 26 年 3 月 千葉商科大学 商経学部商学科 卒業
平成 26 年 4 月～平成 28 年 3 月 東京学館船橋高等学校 情報処理科
非常勤講師
平成 28 年 4 月～ 千葉商科大学 会計教育研究所 助教 現在に至る

【…1. はじめに…】

千葉商科大学に入学してから月日が流れ、現在では会計教育研究所の教員として勤務させていただき、学生たちに簿記・会計の専門分野を教えている。高等学校の教員時代に、生徒に商業を学ぶ必要性を身に付けさせていく過程で、教員という職務に対して、心惹かれたのを覚えている。

現在、我が国の企業数は、国税庁長官官房企画課が平成28年3月に公表した「会社標本調査—調査結果報告—税務統計から見た法人企業の実態」によれば261万6,485社と示されている。企業が継続的に事業を遂行するためには、簿記・会計の知識及び技術を習

得した人材が必要不可欠である。例えば、ある企業が簿記・会計の知識及び技術を習得した者（以下、職業会計人とする。）を1人雇用したいとして、学校機関が職業会計人を1人育成することにより需要を満たしたとする。これが全社レベルになれば、約261万人の雇用に対する需要を満たすことになり、職業会計人の育成は企業の継続経営に対して大きく貢献することができると考えている。

本稿は職業会計人を育成する機関の1つである、千葉商科大学会計教育研究所の会計教育実践の場である「瑞穂会」（以下、「瑞穂会」とする。）活動を中心に示すことにする。

【…2. 瑞穂会の概要…】

瑞穂会は、研究所の目的の1つである簿記・会計に関する資格取得等の支援の実践と研究を行うために、日本商工会議所簿記検定（以下、日商簿記検定とする。）の3級から1級まで、さらに税理士試験の科目である簿記論、財務諸表論等、それぞれの講座を開設して学生に学習支援を行っている。会計教育研究所は、平成24年4月に設立された。

瑞穂会創立者の岩本慶道教授の指導理念である「継続することの大切さ、困難を乗り越える強い精神力、人に対して感謝の心を身に付けさせる」¹を継承しながら学生指導を行っている。

瑞穂会では、税理士試験講座及び日商簿記検定対策講座を年3回開講して学生に資格取得の支援を行っている。各講座の受講料は「無料」であり、学生は教材費を支払えば受講できる仕組みとなっている。また、瑞穂会では、初学者や有資格者の学生に対応しながら指導を行っている。

瑞穂会を受講する学生は、同じ目的を目指す学生同士と時間を共有するため、お互いに倫理観や学習意欲の向上をはかることができる。講座の時間は、平日は大学の正課の講義が比較的少ない4限（14時50分開

1 岩本慶道「一進路指導からみた大学の方向性—」『View & Vision』22, 千葉商科大学経済研究所, 平成 18 年 9 月, 55 頁。

始)、5限(16時30分開始)、土曜日、祝日、夏期休暇、春期休暇は9時から17時まで指導・支援を行っている。

資格を取得したいと考える学生は、大学に通いながら、専門学校で資格取得を目指す等、いわゆるダブルスクールをしなければならない現状がある。瑞穂会を利用することで、学生は金銭的な負担が軽減できるため、経済的に苦しむ学生も資格取得を目指すのである。

表1「平成28年度瑞穂会の開講講座」

募 集	4 月	6 月	12 月
税理士試験講座	日商簿記検定1級取得者又は瑞穂会所属の学生のみ随時募集。		
日商簿記検定1級講座	○	○	○
日商簿記検定2級講座	○	○	○
日商簿記検定3級講座	○	○	○

※○が開講した講座を示している。

出所：筆者作成。

【…3. 簿記・会計初学者の指導…】

簿記・会計の初学者を対象に日商簿記検定3級の指導をするにあたり、一斉授業だけで受講している学生全員を理解させることは容易ではない。一斉授業で一方的に講義をしても、簿記・会計における知識及び技術は身に付かないものである。

初学者を対象とした簿記・会計教育に必要なことは、授業だけではなく、補習や質問に対応できるようにあらかじめ指導計画を立てておくことである。簿記・会計の導入段階で苦手意識を持ってしまうと、知識及び技術が身に付かない。どの程度理解しているのか、どの分野を苦手としているのか、学生一人ひとりに対応していくことが求められる。

初学者は簿記・会計を学習するにあたり、自己の能力に対して不安なことも出てくるため、学習面だけではなく精神面からも指導していく必要がある。このように様々な方向から学生を支えていくことで、

自己の能力に自信を持たせることができると考える。

日商簿記検定3級という目標に向かって努力していく過程で、自分自身に自信を持つことができ、学生はさらに上級へと挑戦していけるのである。



「初学者を対象とした一斉授業の様子」



「机間巡視での個別指導の様子」

【…4. 上級資格の取得を目指す学生の指導…】

日商簿記検定1級や税理士試験等の資格取得を目指す学生を指導する場合、学生の進路に対応して長期的な指導計画を作成する必要がある。瑞穂会に所属して

いる学生の進路は、民間企業、高等学校の商業科教員、税理士と区分することができる。民間企業、高等学校商業科教員を目指す学生は、日商簿記検定1級、税理士試験の簿記論を取得する傾向にある。したがって、大学4年生で行う就職活動や教員採用候補者選考試験に間に合うよう、大学3年生の6月、または11月に実施される日商簿記検定1級が取得できるように指導計画を作成しなければならない。

最も長期的な指導計画が必要なのは税理士を目指す学生である。税理士を目指す学生の指導計画を表2に示す。税理士試験は、会計科目2科目、税法科目3科目に合格しなければならないが、1科目ずつ受験が可能のため、学生に対して、1年に1科目または2科目

に標準を合わせて受験させる。

表2のように、大学院も含めた6年間の指導計画であれば、税理士試験5科目を合格できる可能性が高まるのである。大学院に進学する学生は入学前、または、入学して税理士試験の受験が終わった後に、会計事務所等で実務経験をさせることも指導計画に含まれている。一般的に、大学院2年生から就職活動を開始するが、税理士試験と修士論文作成を踏まえると、大学院2年生以前から実務経験をさせた方が望ましいと考えるためである。

以上のような指導計画に基づき、上級資格を目指す学生に対して指導を行っている。

【…5. 瑞穂会全国トップクラスの実績…】

会計教育研究所が、設立された平成24年度から平成28年度（1月末時点）までの日商簿記検定3級から1級、税理士試験合格者（科目合格者も含む）を示す。日商簿記検定3級232名、日商簿記検定2級227名、日商簿記検定1級62名、税理士試験1名、税理士試験科目合格者は簿記論17名、財務諸表論11名、法人税法1名、消費税法1名、国税徴収法1名となっている。

就職先は、野村證券、みずほ証券、ヤマト運輸株式



「一斉授業の様子」

表2「初学者が税理士試験合格するまでの長期指導計画の概要」

	大学1年生	大学2年生	大学3年生	大学4年生	大学院1年生	大学院2年生
日商簿記検定3級	6月合格					
日商簿記検定2級	11月・2月合格					
日商簿記検定1級		11月合格				
税理士試験			会計科目	会計科目		
				税法科目	税法科目	税法科目

※大学院の修士課程において、会計学に関係する科目を単位習得して、会計学に関する修士論文を作成して申請すれば、税理士試験会計科目1科目の免除が可能である。また、税法に関係する科目を単位習得して、税法に関する修士論文を作成して申請すれば、税理士試験税法科目2科目の免除が可能である。

出所：筆者作成。

会社、総合警備保障株式会社、JA 全農あきた、武蔵野銀行、市川商工会議所、船橋市役所、税理士法人メディア・エス、高橋税務会計事務所、酒井規勝会計事務所等となっている。教員としては、千葉県、埼玉県、茨城県、静岡県の高等学校の商業科教員として複数名勤務している。

また、瑞穂会では、資格取得の過程の一環として「資格の大原・大原大学院大学主催（後援イタリア大使館・日本公認会計士協会）の全国大学対抗簿記大会・日商簿記1級の部に毎年参加しており、団体戦優勝4回、準優勝5回、個人戦優勝3回している。参加大学には国立大学等も含まれており、その中で瑞穂会の学生は上記のような戦績を残している。

以上のように、瑞穂会から、職業会計人や高等学校教員を育成して社会に輩出している。

【…6. おわりに…】

瑞穂会の受講生は毎年増加傾向にあるため、様々な学生に対応した指導ができるよう日々、教材研究に磨きをかける必要がある。

会計教育研究所所長の榎岡源一郎先生には十分な教材研究ができるよう、いつもご配慮をいただいている。また、兼担研究員である千葉啓二先生、土屋和之先生、谷川喜美江先生、勅使河原隆行先生、近藤真唯先生からは瑞穂会の学生の精神的なサポートをしていただいている。さらに、イップ圭子様には、瑞穂会の講座を開講するまでの段取りや事務的な手続き等をしていただき、教員が学生指導に集中できるようにご配慮をいただいている。この場をお借りして、先生方と職員の方に感謝を申し上げたい。

皆様のご支援に感謝しながら、今後も瑞穂会の実績が向上できるよう学生指導に励みたい。

（1. 2. 3. は相原が担当し 4. 5. 6. は渡邊が担当した。）